

第Ⅱ章 新たなミュージアムの事業について

1 新たなミュージアムの「使命」及び「めざす姿」

第Ⅰ章での整理を踏まえ、新たなミュージアムの活動の根幹にあたり、ミュージアムが責任を持って果たしていくべき「使命」と、その「使命」に基づき、どのようなミュージアムを目指していくのかを示す「めざす姿」を次のとおりとします。

(1) 使命

市民とともに、川崎の「これまで」をたどり、「これから」のあたらしい川崎を彩る

- ・ 新たなミュージアムは、街道や宿場、工業都市としての発展など川崎の特色ある歴史や多様な文化を、市制以前を含めた「これまで」として振り返り、引き継ぐとともに、「これから」の未来をより豊かに彩るための活動を展開します。
- ・ 川崎の文化芸術の魅力が詰め込まれたモノ、ヒト、コトをつなぐことで、川崎のこれからの切り拓く礎である市民の考える力や協働する力を育て、よりよいまちづくりに貢献します。

(2) めざす姿

- ・ 新たなミュージアムは、「使命」に基づき、次の5つの「めざす姿」の実現に向けて活動していきます。
- ・ また、市民にとって、「日常」に彩りが加わる「非日常」を感じられ、文化芸術をはじめとした様々な世界とつながることができる場として活動していきます。

① 過去を紐解き、現在を記録し、未来へつなげるミュージアム

新たなミュージアムは、川崎の成り立ちやこれまでの歩みを紐解くとともに、市民が生きる現在を記録し、より豊かな未来につなげていくミュージアムを目指します。

② モノ、ヒト、コトをつなぎ、交流を創出するミュージアム

新たなミュージアムは、様々なモノを媒介にした体験や対話を通じ、世代や文化を超えて、市民をはじめとした多様なヒトや多彩なコトをつなぎ、様々な交流を創出するミュージアムを目指します。

③ 日常と文化芸術をつなぎ、市民が身近に感じられる開かれたミュージアム

新たなミュージアムは、市民の多様なレベルの創作・鑑賞等のニーズに応え、誰

もが文化芸術活動に携わり、親しみ、楽しめる環境づくりを行い、市民が身近に感じられる開かれたミュージアムを目指します。

④ 既知と未知をつなぎ、共創を通じてともに成長するミュージアム

新たなミュージアムは、多様な主体が持つ知見を活用し、相互対話により未来を共創する活動につなぎ、地域的、社会的課題に向き合い、市民とともに成長するミュージアムを目指します。

⑤ 地域社会の担い手となる人材を育成するミュージアム

新たなミュージアムは、地域に開かれた活動などを通じて、文化芸術が有する様々な価値や魅力が幅広い分野で活かされる可能性を広げることにより、地域社会の担い手となる人材を育み、好循環を生み出すミュージアムを目指します。

■ (参考) 「基本的な考え方」と基本構想の関連性



2 新たなミュージアムの活動イメージ

(1) 「ミュージアム（拠点施設）」について

新たなミュージアムは、1か所に集約する必要がある機能やまとまった空間が求められる機能（収蔵庫、常設展示室、修復用諸室、創作活動やイベントのための大規模な屋内空間など）で構成し、来館者や学芸員等のスタッフが効果的・効率的な活動ができる施設を「ミュージアム（拠点施設）」として適切な規模で整備します。

(2) 「まちなかミュージアム」について

新たなミュージアムは、市民の誰もが文化芸術に携わり、親しみ、楽しめるものとなることを目指し、市域の多くの場所で人々が新たなミュージアムの活動に触れられるよう、「まちなかミュージアム」の取組を展開していきます。

「まちなかミュージアム」では、現在も市民ミュージアムが出張形式により実施している既存の市内他施設（ミューザ川崎シンフォニーホールや大山街道ふるさと館など）を活用した展示等の取組を踏まえ、関係施設との連携の強化を図り、これまでの市民ミ

ミュージアムの取組を引き継ぎ、発展させていきます。また、デジタル技術を活用した取組や野外プログラム・体験プログラムなどの施設に捉われない柔軟な取組や、学校や企業などで自由に活用できる貸出キットの整備なども検討し、市域に活動の範囲を広げていくことにより、誰もが文化芸術に携わり、親しみ、楽しめる環境づくりを果たしていきます。

なお、「まちなかミュージアム」の取組において新たなミュージアムの収蔵品を活用する際は、展示環境（温湿度管理やセキュリティなど）や利用用途等を踏まえ、適切な活用を行うこととします。

(3) 「ミュージアム（拠点施設）」と「まちなかミュージアム」の関係性について

「ミュージアム（拠点施設）」は、市民にとって、展示物をはじめとした多様なモノと向き合うことで、日常の世界から未知の世界へと視野を広げられる場所、自身の思考や他者への理解を深められる場所、様々なつながりを見つけられる場所となるよう、来館することで得られる経験や、デジタルではない「リアルなモノ」に出会える機会を提供し、限られた空間を有効活用して取組を展開していきます。

また、「まちなかミュージアム」は、新たなミュージアムが持つモノや、「ミュージアム（拠点施設）」で生まれたコトを外に広げることにより、市民と新たなミュージアムの接点を増やし、新たなミュージアムがもたらす効果を地域や生活に波及させていくことを目的として、親しみやすさを意識しながら様々な取組を展開していきます。

■ 「ミュージアム（拠点施設）」と「まちなかミュージアム」の関係性イメージ

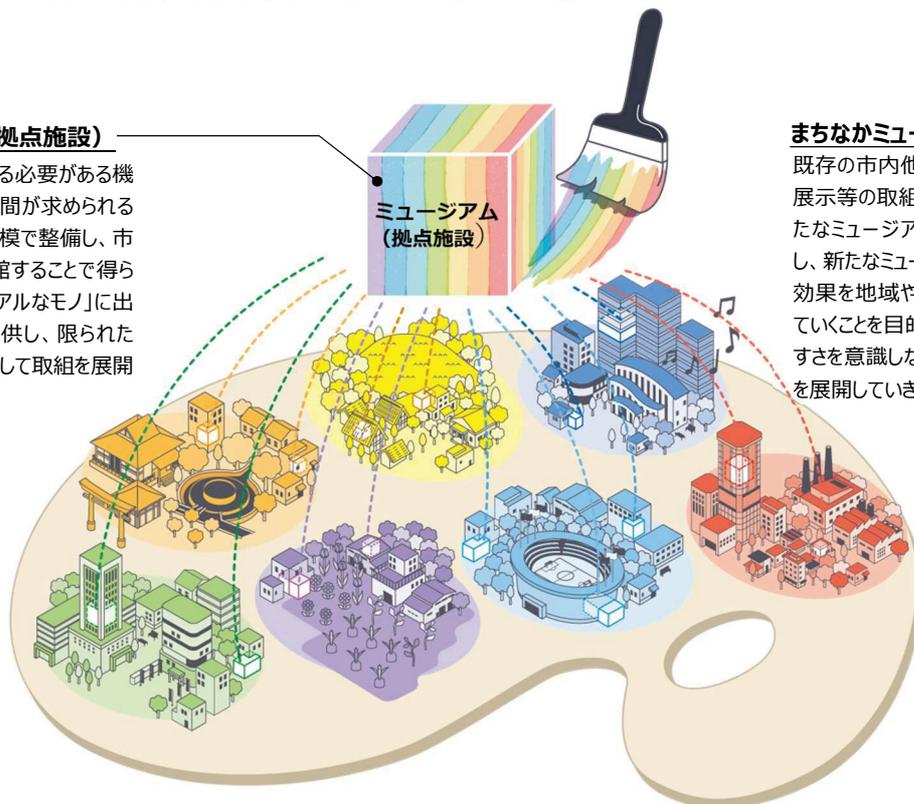
ミュージアム（拠点施設）

1か所に集約する必要がある機能やまとまった空間が求められる機能を適切な規模で整備し、市民に対して、来館することで得られる経験や、「リアルなモノ」に出会える機会を提供し、限られた空間を有効活用して取組を展開していきます。

ミュージアム
(拠点施設)

まちなかミュージアム

既存の市内他施設を活用した展示等の取組により、市民と新たなミュージアムの接点を増やし、新たなミュージアムがもたらす効果を地域や生活に波及させていくことを目的として、親しみやすさを意識しながら様々な取組を展開していきます。



3 新たなミュージアムの事業展開

新たなミュージアムの「使命」と「めざす姿」を実現するためには、「収集・保管、調査研究、展示」といった、ミュージアムの活動の基盤となる事業を着実に展開するほか、新たなミュージアムが、誰もが文化芸術に気軽に親しみ、楽しむことができるためのエントランスとなるよう、インクルーシブで敷居の低い事業展開も重要となります。そのためには、「ミュージアム（拠点施設）」の活動から「まちなかミュージアム」の活動へと手を伸ばし、市民の日常生活にありつつ、市民一人ひとりの興味・関心から気軽にアクセスできるような事業展開の工夫が必要です。

また、より多くの市民が文化芸術に親しむようになることで、元々文化芸術に接する機会が多い方はもちろんのこと、これまで興味・関心がなかった方も含め、市民一人ひとりの中から生まれてくる好奇心に対して、それらを丁寧に汲み取り、高めていくことも必要です。そのため、新たなミュージアムは、市民の多様性への理解や未来への思考、様々な物事への興味・関心や探求心を高める活動に、積極的に取り組むことが重要です。

(1) 新たなミュージアムの事業展開の方向性

新たなミュージアムは、「収集・保管、調査研究、展示」事業の着実な展開のほか、博物館、美術館の枠を超えて様々な交流を創出する「交流創出」事業、誰もが文化芸術を身近なものとして楽しみ、親しみながら携わることができる活動を展開する「支援・普及促進」事業、人々が新たな気付きを得られるような活動や、多様な主体との共創を展開する「未来思考・未来創出」事業、市民の好奇心や探求心を高め、文化芸術を通じて地域社会の担い手となる人材を育成する「人材育成」事業の特徴的な4つの事業を展開していきます。ミュージアム活動の基盤となる「収集・保管、調査研究、展示」事業がこの4つの事業を支え、それぞれの事業が相互に関連・影響し合い、好循環を生み出せるような事業展開を目指します。

また、新たなミュージアムは、文化施設であるとともに社会教育施設であることも踏まえ、全ての事業において教育普及を念頭に置いて取組を行っていきます。教育普及については、知識を持っている人が一方的に教えるのではなく、「ともに学ぶこと」に重きを置き、積極的、能動的な学びや、相互の学びにつながるような事業展開を目指します。

① 収集・保管、調査研究、展示

【方向性】

- ◆ 新たなミュージアムは、時代が変わっても引き継いでいくべき「川崎らしさ」を大切に、令和元年東日本台風による被災の事実を含め、川崎の成り立ちやこれまでの歩みを伝える歴史・民俗資料、川崎ゆかりの作家による作品などをはじめとした川崎の過去から現在に渡る資料・作品を適切に収集・保管します。また、これらの調査研究を進め、その成果を未来へつなぐため、展示等を通じて市民に共有・還元していきます。

（想定する主な取組）

- ・ 川崎の都市化を物語る資料や川崎ゆかりの作家の作品・資料、現代美術作品等の収集
- ・ 収蔵品の適切な保管及び被災収蔵品の修復管理
- ・ 資料・作品等の調査研究及び研究成果に基づく展示公開
- ・ 市民に身近なテーマによる博物館、美術館が融合した「ミュージアム」ならではの展示
- ・ 被災収蔵品の修復活動や学芸員の調査研究活動をはじめとした、様々な形での市民参加



② 交流創出

【方向性】

- ◆ 新たなミュージアムは、博物館、美術館の枠を超えて、収蔵品などの「モノ」、来館者や学芸員などの「ヒト」、イベントなどの「コト」を介した様々な交流を創出していきます。また、人々に交流の楽しさを伝え、一人ひとりを取りまく多様なつながりを発見し、新たな世界が見つかるような活動を展開していきます。

(想定する主な取組)

- ・ 自身で考えるとともに他者と考えを交換することで、共感や気づき、新たな問いかけなどを促す対話型プログラムの実施
- ・ 学芸員と一緒に創作体験ができ、気軽にモノをつくることの楽しさが味わえるワークショップや多彩なテーマによるトークイベントの実施
- ・ 市民団体や学校、企業等をはじめとした分野を横断した多様な主体との連携
- ・ ミュージアム内におけるアーティストの創作活動への市民参加（アーティスト・イン・ミュージアム）
- ・ 資料・作品等を通じて川崎の魅力を紹介することによる、川崎に関心を持つ人や訪れる人、新たに川崎に住み始めた人などの多様な人々の交流の創出



③ 支援・普及促進

【方向性】

- ◆ 新たなミュージアムは、「まちなかミュージアム」などの取組を通じて、誰もが文化芸術を身近なものとして楽しみ、親しみながら携わることができるような活動を展開していきます。

(想定する主な取組)

- ・ 市内他施設（東海道かわさき宿交流館、アートセンター、ミュージアム川崎シンフォニーホールなど）における出張展示や学校、企業等への収藏品等の貸出（まちなかミュージアム）
- ・ 市民や川崎ゆかりの作家をはじめとした様々な文化芸術活動の担い手の支援
- ・ 親子で楽しめる子育て世代の方向けのプログラムや周囲に気兼ねなく楽しめる高齢者や障害者の方向けのプログラムの実施
- ・ 収藏品に触れたり、実際に利用したりする体験プログラムの実施
- ・ 自宅や外出先からでもミュージアムの活動に気軽にアクセスできるような環境の構築



④ 未来思考・未来創出

【方向性】

- ◆ 新たなミュージアムは、市民や企業などが持つ知見やアイデアも活用しながら、人々が新たな気付きや未来のあり方を考えるヒントを得られるような活動や、多様な主体との共創を展開していきます。また、市民とともにまちと主体的に関わり、地域的、社会的課題に取り組んでいきます。

（想定する主な取組）

- デジタル・アーカイブやオンライン上での展覧会開催など、時代に対応したデジタル技術等の活用
- まちづくりや福祉、環境などの他分野の関連団体との協働を通じた、地域や社会が抱える課題に対する文化芸術の活用
- ミュージアムの活動や収蔵品等をヒントに、自身で自由な創作ができる機会の創出
- ミュージアムが持つ資料・作品と向き合うことで、多様な価値観への理解や新たなアイデアの発見などにつながるプログラムの実施
- 子どもや若い世代の自由で新しい発想を活かしたプログラムの実施



⑤ 人材育成

【方向性】

- ◆ 新たなミュージアムは、市民の好奇心や探求心を高め、「知りたい」、「学びたい」という気持ちが呼び起こされるような活動を展開していきます。また、文化芸術が有する多様な価値や魅力を活用し、文化芸術を通じて地域社会の担い手となる人材を育成していきます。

(想定する主な取組)

- ・ 生涯学習・社会教育の場として、幅広い世代の多様な興味・関心に応じた学習講座などの実施
- ・ 川崎のことを学び、子どもの頃から川崎に愛着が持てるような社会科教育推進事業やスクールプログラムの実施
- ・ 市民の創作意欲を呼び起こす参加型の展覧会（かわさき市美展など）や体験型イベントの実施
- ・ ボランティアなど様々な形でミュージアム運営に携わる人材の育成
- ・ ミュージアムや文化芸術を通じて、多様な人々をつなぎ、地域社会に貢献することができるような人材（市民コミュニケーター）の育成



(2) 新たなミュージアムの事業が市民や地域にもたらすもの

新たなミュージアムは、これらの5つの事業を通じて、「モノに出会い、触れること」、「モノを介してヒトとつながること」、「様々なコトを創り出していくこと」など、ミュージアムならではの様々な経験や感動を市民に提供し、精神的な豊かさや生活の質の向上に資することにより、SDGsの目標の達成期限である令和12（2030）年を超えたその先にあるポストSDGsの時代も見据えたウェル・ビーイング（well-being）（「肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること」）※4の実現に貢献していきます。また、文化芸術が持つ様々な価値を活かし、市民とともに、地域社会が抱える課題や社会環境の変化等への対応を果たしていきます。

※4 日本WHO協会による世界保健機関憲章前文の仮訳を参照。